

# Dark Triadのライフスキルに対する関連<sup>1), 2)</sup>

## ——反社会的な性格特性の適応的、不適応的側面に関する探索的検討

嘉瀬 貴 祥

立教大学現代心理学部

上 野 雄 己

日本学術振興会特別研究員PD

下 司 忠 大

早稲田大学大学院文学研究科

### 問題と目的

他者操作性を特徴とするマキャベリアニズム (Machiavellianism: Mach), 誇大な自己像や自己顕示的言動を特徴とする自己愛傾向 (Narcissism: Narc), 衝動性の高さや共感性の低さを特徴とするサイコパシー傾向 (Psychopathy: Psych) は反社会的性格特性の代表とされる (Paulhus, 2014)。これら3つの特性はDark Triad (DT) と総称され, 攻撃性の高さなどの共通した要因と関連し (Paulhus & Williams, 2002), 交際相手への暴力など対人関係における問題と関係することが示されている (Kiire, 2017)。加えて, うつ病や薬物依存などのリスク要因であることも指摘されている (Vagi et al., 2013)。

このDTを, 単に反社会的特性と捉えるのではなく, 社会に適応するための様相であると捉える動きがある。例えば, Psychが高い者は公共の場では向社会的行動をとりやすいことや (White, 2013), DTにおける3つの特性すべてが高い者 (高DT者) は社会的資源の獲得に際して, 他者支配的方略と同時に, 自らも別の資源を還元するといった向社会的方略も併用することが示唆されている (Zeigler-Hill, Southard, & Besser, 2014)。このような状況に応じた方略の併用による短期的な適応のありようはDTの特徴とされ (Jonason & Webster, 2012), 情勢の変化が激しく予測可能性の低い社会においては有利に働く場合があると考えられる。

社会適応という観点より, DTと関連すると推察される要因としてライフスキル (life skills: LS) が挙げられる。LSとは, 日常生活で生じる問題に対して効果的に対処するために必要な能力であり (World Health Organization, 1994), 計画性や論理的思考を用いて問題を効果的に解決する意思決定スキル (decision making: DM), 他者へ共感

しその共感を言動で表現する対人関係スキル (interpersonal relationship skill: IR), 考えを積極的かつ効果的に他者へ伝える効果的コミュニケーションスキル (effective communication skill: EC), 情動を効果的に統御する情動対処スキル (coping with emotion: CE) から構成される (嘉瀬・飯村・坂内・大石, 2016)。LSは, その向上を図ることで問題行動の発現を予防し精神的健康を維持するといった, 社会適応を促進する健康教育に関する文脈で扱われることが多い (e.g., Botvin & Griffin, 2014)。

LSのなかでも, DMやECには, 自らの置かれた状況を把握し損益を検討したうえで, 効果的な対処や交渉を実行する能力が含まれている (嘉瀬他, 2016)。これらは状況に応じた柔軟な対処に用いられる能力であると同時に, 先述したDTの特徴とされる短期的な適応に必要なと考えられることから, DTにおける3つの特性とは正の関連にあると推察される。一方でPsychの特徴に鑑みると, 自己を統制する能力であるCEと共感を含むIRに対して, Psychは負の関連を持つと予測される。しかしながら, DTとLSの関連性は明らかとなっていない。反社会的性格特性とされるDTの特徴を社会適応的な健康教育の文脈で扱われるLSに対する関連に基づいて明らかにすることで, DTの適応的, 不適応的側面に関する知見が得られる。加えて, 主に青少年に対してLSの向上を目的として行われるライフスキル・トレーニングなどの健康教育の場面における, 高DT者の特徴を示す者, あるいはそれぞれの特性が高い者への配慮に対する示唆を得ることができると期待される。また, DTを構成する3つの性格特性は階層的な因子構造を持ち, 共通する要因を持つものの, それぞれが明確に異なる特徴を示すことが指摘されている (Jones & Paulhus, 2017; 下司・小塩, 2017)。つまり, DTと他の要因の関係性を示す際には, 3つの性格特性を個別に扱うことで詳細な情報が得られる (Furnham, Richards, Rangel, & Jones, 2014)。そこで本研究では, DTのLSに対する関連性について, それぞれの構成要因に注目して検討することを目的とした。

### 方 法

調査協力者と手続き 2017年12月に集合調査法による

1) 本研究の一部は, JSPS科研費17H07163の助成を受けて実施された。また, 本研究で用いた心理尺度得点に関する記述統計量は<https://researchmap.jp/tkase/>にてAppendixとして公開している。

2) 調査の実施にお力添え頂いた遠藤伸太郎先生 (中央大学) に心より御礼申し上げます。

Table 1 Results of multivariate regression analysis (N=272)

	DM	IR	EC	CE	VIF
Sex	-.06 [-.19, .06]	.04 [-.08, .16]	.09 [-.02, .19]	-.17** [-.29, -.05]	1.20
Age	.05 [-.07, .17]	-.02 [-.14, .09]	.06 [-.04, .16]	.10 [-.02, .21]	1.10
Machiavellianism	.24** [.12, .35]	.13 [.01, .24]	-.07 [-.17, .04]	-.06 [-.17, .06]	1.09
Narcissism	.20** [.07, .33]	.33** [.21, .45]	.56** [.45, .68]	.38** [.26, .51]	1.27
Psychopathy	-.22** [-.35, -.09]	-.45** [-.58, -.33]	.06 [-.06, .17]	-.29** [-.42, -.17]	1.31
$R^2$	.11**	.19**	.33**	.19**	

Note. DM: decision making, IR: interpersonal relationship skill, EC: effective communication skill, CE: coping with emotion. Values in square parentheses are 95% confidence intervals of standardized partial regression coefficients.

\*\* $p < .01$

質問紙調査を行い、大学生272名（男性135名、女性137名、平均年齢20.0歳、 $SD=1.1$ ）から回答を得た。この調査は、第一著者の所属機関の倫理委員会より承認（番号：17-30）を得て実施された。

**測定項目** (1) DT：日本語版 Short Dark Triad（下司他, 2017; SD3-J）を用いた。SD3-JはMach（ $\alpha=.65$ ）、Narc（ $\alpha=.77$ ）、Psych（ $\alpha=.66$ ）の3下位尺度で構成され、それぞれ9項目に対し5件法で回答を求めた。下位尺度の信頼性係数は高い値ではなかったが、SD3-Jが同程度の信頼性係数を示すことは、DTという複雑な概念を9項目で測定するという観点から妥当であると判断されている（下司他, 2017）。なお、確認的因子分析によりSD3-Jの階層因子モデルを検証したところ、下司他（2017）と同程度のモデル適合度（CFI=.81, SRMR=.06, RMSEA=.06）が得られ、DTにおける階層的な因子構造が確認された。そのうえで、本研究では目的に合わせ、下位尺度得点を個別に分析に用いることとした。(2) LS：青年・成人用ライフスキル尺度（嘉瀬他, 2016；以下、LSSAAと略記）を用いた。LSSAAはDM（8項目： $\alpha=.80$ ）、IR（5項目： $\alpha=.80$ ）、EC（5項目： $\alpha=.74$ ）、CE（3項目： $\alpha=.79$ ）の4下位尺度で構成され、5件法で回答を求めた。

**統計分析** 本研究の目的に沿い、多変量重回帰分析を行った。分析にはIBM SPSS Statistics 25を使用し、有意水準は1%に設定した。

## 結 果

性別と年齢を統制変数<sup>3)</sup>、SD3-Jの各尺度得点を説明変数、LSSAAの各尺度得点を目的変数とした、多変量重回帰分析を行った（Table 1）。モデルはデータと適合しており（ $F(20, 1064)=11.43, p<.001$ ）、説明変数それぞれの主効果も有意であった（ $F(4, 263)=6.35 \text{ to } 31.44, ps<.001$ ）。まずDMに対して、MachとNarcが正の関連（ $\beta=.20 \text{ to } .24$ ）、Psychが負の関連（ $\beta=-.22$ ）を示していた（ $R^2=.11$ ）。

またIRとCEに対して、Narcが正の関連（ $\beta=.33 \text{ to } .38$ ）、Psychが負の関連（ $\beta=-.29 \text{ to } -.45$ ）を示していた（ $R^2=.19$ ）。さらにECに対して、Narcが正の関連（ $\beta=.56$ ）を示していた（ $R^2=.33$ ）。

## 考 察

MachがDMに正の関連を示していたことから、Machが高い者はDMに含まれる計画性や論理的思考といった技能を用いて、計画的かつ論理的に他者操作を行うことが示唆された。また、NarcがすべてのLSに正の関連を示していたことから、Narcが高い者に顕著に見られる自らの存在を強調し他者の注目を集めるような言動（Paulhus, 2014）をとる際には、自己肯定的な感情を高め、他者へ効果的に働きかけるようにLSが動員されると推察される。さらに、PsychがDMとIR、そしてCEに対して負の関連を示していたことは、Psychの高い者の特徴である計画性と共感性の低さや衝動性の高さ（Paulhus, 2014）が、社会不適応的に働く可能性を示している。加えて、MachとNarcがDMとECに対して正の関連を示していたことは、DMやECはDTに特徴的な短期的な適応に用いられるという仮定を支持する結果であったと考えられる。

長期的な問題行動の抑制や精神的健康の向上の観点からは、すべてのLSを一樣に向上させることが有効であると示唆されている（e.g., Botvin & Griffin, 2014）。このことから、DTが高いことに由来してDMとECのみが高い場合には、短期的には適応的でありながらも、長期的にはVagi et

3) 性別の $\beta$ が有意であったCEを目的変数とした重回帰分析を男女別実施した結果、男女ともにCEに対してNarcが正の関連（男性： $\beta=.45$ ；女性： $\beta=.28$ ）、Psychが負の関連（男性： $\beta=-.24$ ；女性： $\beta=-.37$ ）を示していたため（男性： $R^2=.19$ ；女性： $R^2=.14$ ）、変数間の関連性については男女間で差異はないと判断した。

al. (2013) で指摘されるような心理社会的リスクを有している可能性がある。また Narc と Psych が高い者は、私益のために他人に罪悪感を与えるなどの行動をとることが示されている (Nagler, Reiter, Further, & Rauthmann, 2014)。本研究の結果を考慮すると、Mach や Narc が高い者の DM と EC のみが向上した場合、高い計画性や巧みな会話によってこのような反社会的行動がより助長される可能性がある。そのため健康教育の場面では、LS の向上に偏りが生じないようなプログラムを実施する配慮が必要であると推察される。

本研究の結果は DT の特徴を示した先行研究 (e.g., Paulhus, 2014) の知見に沿うものであり、さらに DT の社会適応的、不適応的側面について、健康教育の場面に関連した示唆を与えるものであった。今後は、問題行動や精神的健康などの指標を含めて DT と LS の関連性を検討することで、社会適応に加えて健康教育の観点からもより有意義な知見が得られると期待される。

#### 引用文献

- Botvin, G. J., & Griffin, K. W. (2014). Life skills training: Preventing substance misuse by enhancing individual and social competence. *New Directions for Youth Development*, 141, 57–65.
- Furnham, A., Richards, S., Rangel, L., & Jones, D. N. (2014). Measuring malevolence: Quantitative issues surrounding the Dark Triad of personality. *Personality and Individual Differences*, 67, 114–121.
- Jonason, P. K., & Webster, G. D. (2012). A protean approach to social influence: Dark Triad personalities and social influence tactics. *Personality and Individual Differences*, 52, 521–526.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2017). Duplicity among the dark triad: Three faces of deceit. *Journal of Personality and Social Psychology*, 113, 329–342.
- 嘉瀬貴祥・飯村周平・坂内くらら・大石和男 (2016). 青年・成人用ライフスキル尺度 (LSSAA) の作成 心理学研究, 87, 546–555.
- Kiire, S. (2017). Psychopathy rather than Machiavellianism or narcissism facilitates intimate partner violence via fast life strategy. *Personality and Individual Differences*, 104, 401–406.
- Nagler, U. K. J., Reiter, K. J., Further, M. R., & Rauthmann, J. F. (2014). Is there a “dark intelligence”? Emotional intelligence is used by dark personalities to emotionally manipulate others. *Personality and Individual Differences*, 65, 47–52.
- Paulhus, D. L. (2014). Toward a taxonomy of dark personalities. *Current Directions in Psychological Science*, 23, 421–426.
- Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556–563.
- 下司忠大・小塩真司 (2017). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成 パーソナリティ研究, 26, 12–22.
- Vagi, K. J., Rothman, E. F., Latzman, N. E., Sharp, A. T., Hall, D. M., & Breiding, M. J. (2013). Beyond correlates: A review of risk and protective factors for adolescent dating violence perpetration. *Journal of Youth and Adolescence*, 42, 633–649.
- White, B. A. (2013). Who cares when nobody is watching? Psychopathic traits and empathy in prosocial behaviors. *Personality and Individual Differences*, 56, 116–121.
- World Health Organization (1994). Life skills education for children and adolescents in school. World Health Organization. Retrieved from <http://apps.who.int/iris/handle/10665/63552> (June 1, 2018)
- Zeigler-Hill, V., Southard, A. C., & Besser, A. (2014). Resource control strategies and personality traits. *Personality and Individual Differences*, 66, 118–123.

—2018.6.14 受稿, 2018.10.29 受理—

## Relationship between Dark Triad and Life Skills: An Exploratory Study of Adaptive and Maladaptive Aspects of Antisocial Personality Traits

Takayoshi KASE<sup>1</sup>, Yuki UENO<sup>2</sup> and Tadahiro SHIMOTSUKASA<sup>3</sup>

<sup>1</sup> College of Contemporary Psychology, Rikkyo University

<sup>2</sup> Research Fellow of Japan Society for the Promotion Science (PD)

<sup>3</sup> Graduate School of Letters, Arts and Science, Waseda University

THE JAPANESE JOURNAL OF PERSONALITY 2019, Vol. 27 No. 3, 266–269

This study aimed to investigate the relationships of the antisocial personality traits called the Dark Triad, which includes Machiavellianism, narcissism, and psychopathy, with life skills including the ability to adapt to society (i.e., decision-making, interpersonal relationships, effective communication, and coping with emotions). A total of 272 university students completed the Japanese version of the Short Dark Triad and Life Skills Scale for Adolescents and Adults. Multivariate multiple regression analysis showed that Machiavellianism, narcissism, and psychopathy related to life skills in different ways. These results support the findings of previous studies suggesting the link between the Dark Triad and social adjustment.

**Key words:** Dark Triad, life skills, social adjustment, multivariate multiple regression analysis